

各中・高等学校における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標
設定に関する Q&A (案)

〔趣旨・目的〕

1. 何のために「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定するのですか。
2. 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定すると、どのような効果があるのですか。
3. 学習到達目標とは、全ての生徒が達成すべき目標ですか。あるいは、達成することが望ましいものにとどまる目標ですか。
4. 学習到達目標と学習指導要領上の目標とはどのような関係にあるのですか。
5. 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標は教室内活動に即したものです。あるいは実生活における英語の使用場面に即したものですか。
6. 全ての中・高等学校において作成が求められるのですか。
7. 小学校においても、今後、作成が求められるのですか。

〔設定手順〕

8. どのようにして「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定するのですか。
9. 能力記述文とは何ですか。
10. 能力記述文はどのように作成するのですか。
11. 「CAN-DO リスト」の形の学習到達目標に文法事項も含めるのですか。
12. 学年ごとに学習到達目標を設定する場合、一つの技能ごとにいくつくらいの能力記述文を作成するのが適当ですか。
13. 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定するにあたって、国のひな形はあるのですか。
14. 外部検定試験に関する到達目標を設定してもいいのですか。(例. 〇〇試験で〇級あるいは〇点がとれるようになる)
15. 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定するにあたって、学校内や外国語科内ではどのように取り組めばいいのですか。
16. 「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 (CEFR)」や CEFR を踏まえた国内の取組、外部検定試験の実施団体が開発した「CAN-DO リスト」をそのまま使ってもいいのですか。
17. 能力記述文に、話したり書いたりする文の数や語数、要する時間などの数値的な目安を含めてもいいのですか。
18. 入試に関する事項 (例. 大学入試センター試験の大問〇で〇割得点できる) を含めてもいいのですか。
19. 生徒間の学力差が大きい学校においては、どのように学習到達目標を設定すればいいのですか。中間層の生徒の英語力を想定するのですか。
20. 「全ての生徒に求められるのは、例えば 10 項目のうち、①～⑥の 6 項目を達成することであり、習熟に時間がかかる生徒にとっては、少しでも①～⑥の 6 項目に近づくよう学習意欲を維持させ、目標を超えた伸長がみられる生徒には、さらに⑦, ⑧, ⑨, ⑩項目までの達成を目指す」といった目標設定は可能ですか。

21. 卒業時の学習到達目標は第3学年（最終学年）の目標と同じものとなるのですか。

〔活用方法〕

22. 「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標は、どのように活用するのですか。
23. 従来作成している年間指導計画と「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標はどのような関係にあるのですか。
24. 「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標の達成に資する授業実践の例を教えてください。
25. 外国語科における観点別学習状況の評価と「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標はどのような関係にあるのですか。
26. 観点別学習状況の評価における全ての観点について「CAN-DO リスト」の形で目標設定をするのですか。
27. 観点別学習状況の評価における単元の評価規準を「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標として使ってもいいのですか。
28. 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標は、どのように公表したり生徒や保護者等と共有したりすればいいのですか。

〔設定した学習到達目標の達成度を把握するための評価〕

29. 設定した学習到達目標すべてについて評価しなければならないのですか。
30. 「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標を達成できなかった生徒についてはどのように対応するのですか。
31. 「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標を、生徒による自己評価に用いてもいいのですか。
32. 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標の評価を、学期末の成績（評定）にどう反映させるのですか。

〔設定した学習到達目標の見直し〕

33. 設定した学習到達目標の見直しは、いつ、どのように行えばいいのですか。
34. 設定した学習到達目標について、生徒の達成割合を示す必要はあるのですか。

〔趣旨・目的〕

1. 何のために「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定するのですか。

(答)「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定する目的として、以下のことがあげられます。

- ・ 学習指導要領に基づき、観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について、生徒が身に付ける能力を各学校が明確化し、主に教員が生徒の指導と評価の改善に活用すること
- ・ 学習指導要領を踏まえ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成し、外国語によるコミュニケーション能力、相手の文化的・社会的背景を踏まえた上で自らの考えを適切に伝える能力並びに思考力、判断力、表現力を養う指導につなげること
- ・ 生涯学習の観点から、教員が生徒と目標を共有することにより、言語習得に必要な自律的学習者として主体的に学習する態度・姿勢を生徒が身に付けること

2. 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定すると、どのような効果があるのですか。

(答) どの月に教科書のどのレッスンを教えるかといった時間軸に沿った指導にとどまらず、言語を使って何ができるようになっていくかということ意識した指導・評価を行うことが期待されます。例えば、学習の目標を「簡単な物語文を読んで概要を述べることができる」と設定することにより、それができるようになるための指導を行い、それができるようになったかを把握するための評価を行った上で、次の指導に生かすといった、指導・評価の改善につながります。

3. 学習到達目標とは、全ての生徒が達成すべき目標ですか。あるいは、達成することが望ましいものにとどまる目標ですか。

(答) この手引きにおける学習到達目標とは、各学校において、全ての生徒に求められる英語力を達成するためのものです。

4. 学習到達目標と学習指導要領上の目標とはどのような関係にあるのですか。

(答)「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標は、学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づいたものである必要があります。具体的には外国語科及び外国語科の各科目における目標のうち、「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の観点に対応するものについて、「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定することが適切であると考えられます。

学習指導要領上、中学校の外国語科の目標は「外国語を通じて、言語や文

化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」となっています。更に、英語の目標は、次の4つを示しており、その他の外国語についても英語の目標に準じて行うとしています。

- (1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

上記の目標を卒業時まで達成するためのものとして、学年ごとの学習到達目標を「CAN-DO リスト」の形で設定することになります。

一方、高等学校の外国語科の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」となっており、更に、科目ごとに目標が設定されています。高等学校においては、学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づき、学年ごとの学習到達目標を「CAN-DO リスト」の形で設定することになります。中学校とは異なり、単位制を併用していること、外国語科の科目の開設状況が各学校により異なることに留意が必要です。

※ 具体的には、「10. 能力記述文はどのように作成するのですか」及び「25. 観点別学習状況の評価と『CAN-DO リスト』の形で設定した学習到達目標はどのような関係にあるのですか。」の回答を参照ください。

追加質問 (案)

5. 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標は教室内活動に即したものですか。あるいは実生活における英語の使用場面に即したものですか。
6. 全ての中・高等学校において作成が求められるものですか。
7. 小学校においても、今後、作成が求められるのですか。

〔設定手順〕

8. どのようにして「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定するのですか。

(答) 外国語担当教員等全員の参加の下、生徒の学習の状況や地域の実態等を踏まえ、卒業時の学習到達目標を、言語を用いて「～することができる」という形で設定します。さらに、卒業時の目標を達成するための学年ごとの目標を、年間の指導と評価の計画、単元ごとの指導と評価の計画の策定と並行して、4技能を用いて「～することができる」という形（「CAN-DO リスト」の形）で設定します。卒業時の学習到達目標、学年ごとの「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標、年間及び単元ごとの指導と評価の計画が、それぞれ相互に対応したものとなるよう調整します。

9. 能力記述文とは何ですか。

(答) 言語の4技能（「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」）を用いて何ができるようになるかを「～することができる」という形で具体的に記述したものが能力記述文であり、本手引きでは、卒業時までには達成する学習到達目標、及び学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づく学年ごとの学習到達目標を能力記述文を用いて設定することを推奨しています。能力記述文は、ある言語の使用場面における言語活動を表すものであり、生徒の言語能力を踏まえたものとする必要があります。さらに、学習活動の一環として行う言語活動であり、各学校が適切な評価方法を用いて評価できるものである必要があります。

（能力記述文の例）

- ・ 基本的な挨拶の決まり文句を聞いて、理解することができる。
- ・ 日常生活に関する簡単な質問をしたり、簡単な質問に答えるたりすることができる。
- ・ 身近な話題について発言したり、反応することができる。
- ・ 写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のある話題（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる。
- ・ 構成がはっきりした物語や現代の文学作品の筋を理解することができる。
- ・ 自分の関心のある分野の様々な話題について、簡単なつながりのある文章を書くことができる。

10. 能力記述文はどのように作成するのですか。

(答) 学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づく学年ごとの学習到達目標を示す能力記述文については、例えば、以下の方法を用いて作成することができます。

- ・ 高等学校の場合は学習指導要領上の外国語科の目標、当該学年で履修する科目の目標及び教科書の内容など、中学校の場合は学習指導要領上の外国語科の目標及び当該学年で使用する教科書の内容などを踏まえ、当該学年の終了時点で生徒が達成すべき目標を能力記述文で表す。同時に、これらのことを踏まえ、教科書などの教材を用いた単元ごとの目標を設定し、そ

れが能力記述文に対応したものになっているかを検討する。また、複数の単元の目標をまとめて一つの学習到達目標を示す能力記述文を作成するという方法も考えられる。その際、例えば、4技能のうち「話すこと」に関する目標がない場合などには、年間及び単元の指導計画を見直す必要があり、見直した指導計画を踏まえて、学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づく学年ごとの学習到達目標を示す能力記述文を作成する。

- ・ 必要に応じて、CEFR や CEFR を踏まえた国内の取組、外部検定試験の実施団体による既存の取組等を参照し、これに実際の学習活動を踏まえた単元の目標を加味して、実態に合わせるための調整を行う。

(例) 例えば、高等学校卒業時の生徒に求められる英語力の外部指標として外部検定試験の級や点数を目安として掲げている場合、当該試験の該当する級や点数に相応する CAN-DO リストを参照して、そこに到達するための学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づく学年ごとの学習到達目標案を作成し、これに実際の学習活動に基づいた単元の目標等を考慮して修正を加えるといった方法が考えられる。

- ・ 中学校の外国語科の目標は 3 年間を通じたものが 4 技能ごとに「～できるようにする」という形で学習指導要領上、示されているので、学年ごとの目標は、例えば、これらの目標を「どのような条件の下でできるか」、「どの程度できるか」、「どのような内容であればできるか」などによって段階に分けたものを設定することが考えられる。
- ・ 高等学校についても、卒業時の目標を達成するための学年ごとの学習到達目標を、「どのような条件の下でできるか」、「どの程度できるか」、「どのような内容であればできるか」などによって段階に分けたものとして設定することが考えられる。

11. 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標には文法事項も含めるのですか。

(答) 文法は、コミュニケーションを支えるものであり、言語活動と効果的に関連付けて指導するものです。例えば、過去や未来の事柄について表現するためには、動詞の時制の使い方を理解する必要があります。

CAN-DO リストの形での学習到達目標との関係では、文法を知識として知っているかではなく、それを活用して理解したり表現したりする能力という観点から、目標設定や評価を行うこととなります。例えば「過去形を使うことができる」という形で目標設定を行うのではなく、「過去の出来事について表現できる」という形にすることで間接的に文法事項を含めることは可能です。

12. 学年ごとに学習到達目標を設定する場合、一つの技能ごとにいくつくらいの

能力記述文を作成するのが適当ですか。

(答) 具体的にいくつの能力記述文を作成するのかは、卒業時の目標、(高等学校の場合) 当該学年で履修する科目の単位数、各能力記述文について評価をする際に要する時間などを考慮して決めることになるため、一概にいくつが目安ということとは言えませんが、例えば、能力記述文を設定し過ぎて評価ができないという事態は避けなくてはなりません。目標設定からそれを達成するための授業内の活動、評価の実施にいたるまでの実行可能性を考え、無理のない範囲で設定することになります。

13. 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標にあたって、国のひな形はあるのですか。

(答) この手引きは、各学校が「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定する過程を経ることにより、日々の授業や評価の改善に役立てていただくために作成しているものですので、現段階では、「CAN-DO リスト」の形での全国一律の学習到達目標は示していません。

14. 外部検定試験に関する到達目標を設定してもいいのですか。(例. 〇〇試験で〇級あるいは〇点がとれるようになる)

(答) 学習到達目標の達成状況を把握するにあたって、卒業時の目標、学年ごとの目標、単元計画等を作成した上で、外部検定試験等を外部指標として補足的に活用することは可能です。その際、その外部検定試験が何を測定しているのかを把握した上で、活用することが重要であり、外部検定試験の受験結果そのものが目標となるべきではないこと、更に、外部検定試験の結果によって評定につながる評価をすることはできないことに留意する必要があります。

15. 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定するにあたって、学校内や外国語科内でどのように取り組めばいいのでしょうか。

(答) 設定過程に外国語科担当教員や可能であれば外国語指導助手など、外国語教育に携わる者全員が参加し、生徒の実態を踏まえた上で、育成したい能力や生徒像、学習指導要領に基づいた指導と評価の方法を共有することが必要です。そのためには、管理職の理解や協力、リーダーシップの発揮が期待されます。

16. 「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 (CEFR)」や CEFR を踏まえた国内の取組、外部検定試験の実施団体が開発した「CAN-DO リスト」をそのまま使ってもいいのですか。

(答) 学習指導要領に基づき、卒業時及び学年ごとの学習到達目標を、年間及び単元ごとの指導と評価の計画の策定と並行して設定することにより、指導

や評価の在り方を見直し、授業改善につなげることがこの取組のねらいですので、既存の「CAN-DO リスト」をそのまま使うことは想定されません。ただし、例えば、能力記述文（言語を使って「～することができる」という形の文）の書き方や各能力記述文の難易度に基づいた配置について、一定規模の調査を経て作成された「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠（CEFR）」や CEFR を踏まえた国内の取組、外部検定試験の実施団体が開発した「CAN-DO リスト」等を参照することはできます。既存の取組を参照することにより、学年の進行に応じて学習到達目標も発達段階に応じたものを作成することが容易になると考えられます。

ただし、既存の取組を参照する場合であっても、各学校や在籍する生徒の実情に応じた分かりやすいものを作成し、指導や評価に活用する中で、設定した目標が生徒の実情に合うものになるよう、適切な時期に見直すことが重要です。

追加質問（案）

17. 能力記述文に、話したり書いたりする文の数や語数、かかる時間などの数値的な目安を含めてもいいのですか。
18. 入試に関する事項（例. 大学入試センター試験の大問○で○割得点できる）を含めてもいいのですか。
19. 生徒間の学力差が大きい学校においてはどのように学習到達目標を設定すればいいのですか。中間層の生徒の英語力を想定するのですか。
20. 「全ての生徒に求められるのは、例えば 10 項目のうち、①～⑥の 6 項目を達成することであり、習熟に時間がかかる生徒にとっては、少しでも①～⑥の 6 項目に近づくよう学習意欲を維持させ、目標を超えた伸長がみられる生徒には、さらに⑦，⑧，⑨，⑩項目までの達成を目指す」といった目標設定は可能ですか。
21. 卒業時の学習到達目標は第 3 学年（最終学年）の目標と同じものとなるのですか。

〔活用方法〕

22. 「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標は、どのように活用するのですか。

(答)「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について、卒業時まで生徒にどのような力を身に付けさせることを目標としているかを常に確認するとともに、当該単元の学習を通じて、言語を使って何ができるようになるかということを意識した指導・評価を行うことが期待されます。そのためには、「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標を年間及び単元の指導と評価の計画に位置づけ、各単元・各時の指導や評価に反映させることが重要です。

23. 従来作成している年間指導計画と「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標はどのような関係にあるのですか。


(答)「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標が年間及び単元の指導と評価の計画に反映されており、有機的に連動していることが重要です(別紙参照)。学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づく学年ごとの学習到達目標は、中学校の場合は外国語科の単元の目標を通じて、高等学校の場合は外国語科の各科目の単元の目標を通じて、実現されることになります。


24. 「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標の達成に資する授業実践の例を教えてください。


(答)「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標の達成に資する授業実践としては、言語活動を充実させた授業が有効です。言語活動の充実は、現行学習指導要領において、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために各教科等を貫く重要な改善の視点として位置付けられています。

○ページの別紙サンプル案を例にとると、この指導案で取り上げられている学習活動(言語活動)は以下のような形で「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標の達成に資するものとなります。

主な学習活動(言語活動) ・教科書の各セクションの内容を口頭で要約する。
・ペアで、メモに基づいて、自分の将来の夢について伝え合う。

単元の目標  ・人物についての説明を読んで、その内容を話すことができる。
・読んだことに基づき、自分の考えを話すことができる。

学年の目標  ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。

卒業時の目標  英語を通じて、場面や状況、背景、相手の表情や反応など

を踏まえて、話し手や書き手の伝えたいことを的確に理解するとともに、自分が伝えたいことを適切に伝えることができる

また、文部科学省及び国立教育政策研究所による次の資料には、「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」と対応する授業実践例や言語活動例が含まれていますので、参照ください。いずれも、校種別に出されています。

- ・新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料（中学校は Vol.1 及び Vol.2, 高等学校は Vol.1, Vol.2 及び Vol.3）
※中学校の Vol.2 及び高等学校の Vol.3 については、文部科学省のホームページに各事例の学習指導案を掲載
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1322195.htm
- ・言語活動の充実に関する指導事例集
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/1300990.htm
- ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

25. 外国語科における観点別学習状況の評価と「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標はどのような関係にあるのですか。

(答) 観点別学習状況評価の趣旨として、指導と評価の一体化を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することがありますが、「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定することにより、これを観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の観点の評価に活かすことが期待されます。

なお、観点別学習状況の評価においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点と併せて、学習指導要領に示す外国語科の目標（高等学校については、学習指導要領に示す外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該外国語科及び外国語科の各科目の目標¹）に照らして、その実現状況の評価を着実に実施することが必要です。

26. 観点別学習状況の評価における全ての観点について「CAN-DO リスト」の形で目標設定をするのですか。

(答) 観点別学習状況の評価における外国語科の評価の観点は「コミュニケー

¹「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（平成 22 年 5 月 11 日）」の別紙 2Ⅱ(1)及び別紙 3Ⅱ1(1)参照

ションへの関心・意欲・態度」,「外国語表現の能力」,「外国語理解の能力」及び「言語や文化についての知識・理解」の4観点ですが,「CAN-DO リスト」の形である学習到達目標を設定する際は,言語を用いて何ができるようになるかという能力記述文を用いて表すため,これに対応しやすいのは,4つの観点のうち「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の2つの観点になります。

27. 観点別学習状況の評価における単元の評価規準を「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標として使ってもいいのですか。

(答) 本手引きにおいては,言語を用いて「～することができる」という能力記述文の形(「CAN-DO リスト」の形)で,学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づく学年ごとの学習到達目標を設定することを推奨しています。したがって,観点別学習状況の評価における単元の評価規準がそのまま「CAN-DO リスト」の形で設定する学習到達目標となることは考えにくく,年間を通じて,複数の単元における学習を通して,ある学習到達目標を達成することになります。単元の評価規準は教科書などの教材の内容等に応じた実際の学習活動を踏まえた具体的なものが想定されますが,学年ごとの「CAN-DO リスト」の形の学習到達目標は,年間の指導を通じて達成されるものであり,より抽象度の高いものとなることが考えられます。

追加質問(案)

28. CAN-DO 形式の学習到達目標は,どのように公表したり生徒や保護者等と共有したりすればいいのですか。

[設定した学習到達目標の達成度を把握するための評価]

29. 設定した学習到達目標すべてについて評価しなければならないのですか。

(答) 「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標にそのまま準拠した評価を行うのではなく,年間及び単元の指導と評価の計画に位置付けた目標の達成状況の評価することになります。すなわち,単元の目標の達成状況の評価することで,間接的に「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標すべてについて達成度を評価する必要があります。したがって,あらかじめ,「CAN-DO リスト」の形の学習到達目標と年間及び単元の指導と評価の計画を関連付けておくことが重要です。

30. 「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標を達成できなかった生徒についてはどのように対応するのですか。

(答) 習熟により時間がかかる生徒についても,きめ細やかな指導を通じ,最

終的に目標を達成することを目指すことが重要です。その際、生徒が目標に到達しつつある過程を教員が適切に評価し、生徒の学習を支援することが重要です。

31. 「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標を、生徒による自己評価に用いてもいいのですか。

(答) 生徒による自己評価にも用いることは有益です。教員による評価とは別に、「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標を生徒と共有するとともに、生徒による自己評価を促すことによって自分の外国語能力を客観的に捉えることは、生徒による学習の振り返りにつながり、生徒の外国語学習への意欲を向上させることができます。また、教員による評価と照らし合わせることにより、指導の振り返りにもつながります。その際、学習到達目標を生徒に分かりやすく書き下した自己評価表を作成することも考えられます。ただし、生徒による自己評価の結果を、教員が行う評価に組み入れることはできません。

追加質問 (案)

32. 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標の評価を、学期末の成績 (評定) にどう反映させるのですか。

[達成状況の把握、設定した学習到達目標の見直し]

33. 設定した学習到達目標の見直しは、いつ、どのように行えばいいのですか。

(答) 外国語科担当教員等が全員で生徒の目標の達成状況を把握し、必要に応じて指導方法を改善します。また、評価の妥当性及び信頼性を高める視点から、評価の方法も見直します。さらに、設定した目標が適切なものであったかどうかを検討し、必要に応じて、設定した目標の内容や難易度、目標の設定や評価を行う時期を変更するといった PDCA サイクルを確立することが重要です。

見直しの時期としては、学年末が望ましいですが、学年途中で見直す場合には、生徒や保護者へも周知する必要があるため、どのような場合に見直しを行うのか、あらかじめ決定しておく必要があります。

追加質問 (案)

34. 設定した学習到達目標について、生徒の達成割合を示す必要はあるのですか。